

天然記念物

沼田西のエヒメアヤメ自生南限地帯



三原市教育委員会
沼田西町エヒメアヤメ保存会



韓国のエヒメアヤメ自生地 (左：外から見た様子、右：開花している個体)

韓国ではアカマツ林の中でしばしばエヒメアヤメが見られます。森林が比較的良好に保たれていたため、生き残ってきたと考えられ、人と自然の共生の好例といえます。現在は、地元の保存会の手による下草刈り作業が3月と8月に行われ生育に適した環境が保たれています。地域の財産として沼田西のエヒメアヤメを将来に伝えていきたいものです。

韓国のエヒメアヤメ自生地

エヒメアヤメが生育できるような明るい環境(里山の森林や草原)は、生育場所の開発や人が山を利用しなくなったことよってどんどん減っています。エヒメアヤメは近い将来絶滅するおそれがある植物でもあります。

保存会の活動で維持管理

エヒメアヤメが生育できるような明るい環境(里山の森林や草原)は、生育場所の開発や人が山を利用しなくなったことよってどんどん減っています。エヒメアヤメは近い将来絶滅するおそれがある植物でもあります。

里山に生育する

エヒメアヤメは明るい森林や草原で見られる日本で最も小さいアヤメ科の植物です。西日本(岡山県から宮崎県)、朝鮮半島から中国にかけて自生地が分布し、日本の自生地はその南限にあたります。小さくて移動能力が低いと考えられるエヒメアヤメが海を隔てて中国大陸と西日本に分布していることから、氷河期に日本が大陸と陸続きだったことを証明する植物学的な証拠として重要なのです。

観察のポイント

葉
断面がジグザグに波打っているのが特徴です。開花時は短いです。開花後に40cm位にまで伸びます。らせん状に巻いた前年の枯れ葉が残っていることがあります。

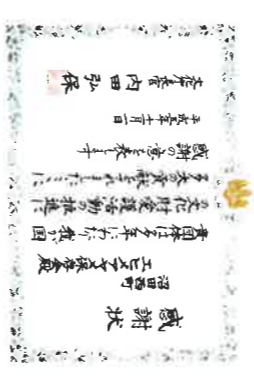
実
花よりもさらに低い位置に着きます。ひとつの果実には10個位の種子が入っていて、熟した種子はアリが運ぶと運ばれています。

花
アヤメ科は花びらの構造が3の倍数でできています。花びらのアヤメ模様は個体によって少しずつ違って、一番個性の現れる部分です。

現地への行き方 (開花期以外は一般公開されていません)

● 本郷駅から南へ約2km
 ■ 自家用車：本郷Cから20分
 ■ バス：三原駅から40分
 ■ タクシー：本郷駅から15分

天然記念物
 「沼田西のエヒメアヤメ自生南限地帯」
 2003年4月20日 初版発行
 2010年3月31日 第2版発行
 編集発行：三原市教育委員会
 協力：内藤和明(兵庫県立大学)



地元住民によって昭和40年に結成され、指定地の保存管理や開花期の案内などを行っています。

保存会



昭和40年代の指定地 (左：外からみた様子、右：内部の様子)

当時指定地やその周辺はアカマツ林でしたが、その後マツ枯れが進み周辺は広葉樹林へと変わりつつあります。保存会の手で下草刈りを行っている指定地の中は現在は草原状になっています。

昭和40年代の指定地

年表	昭和40年代の指定地
1931(昭和6)年	地元の学生により発見
1935(昭和10)年	広島県初の自生地であることが分かる
1937(昭和12)年	国の天然記念物に指定
1950(昭和25)年	沼田西指定地の調査報告
1965(昭和40)年	広島県下の分布図が発表される
1966(昭和41)年	沼田西町エヒメアヤメ保存会を結成
1972(昭和47)年	保護柵・標識の設置
1989(平成元)年	沼田西指定地の調査報告
1993(平成5)年	開花期に一般公開を開始
2000(平成12)年	保存会が文化庁長官表彰を受ける 保護柵の改修

春に開花



バイカイカリソウ(メギ科)

夏に開花



キキョウ(キキョウ科)



カキラン(ラン科)

指定地で
見られる植物

秋に開花



シラヤマギク(キク科)



オケラ(キク科)



ニガナ(キク科)



コナスビ(サクラソウ科)



ノアザミ(キク科)



リュウノウギク(キク科)



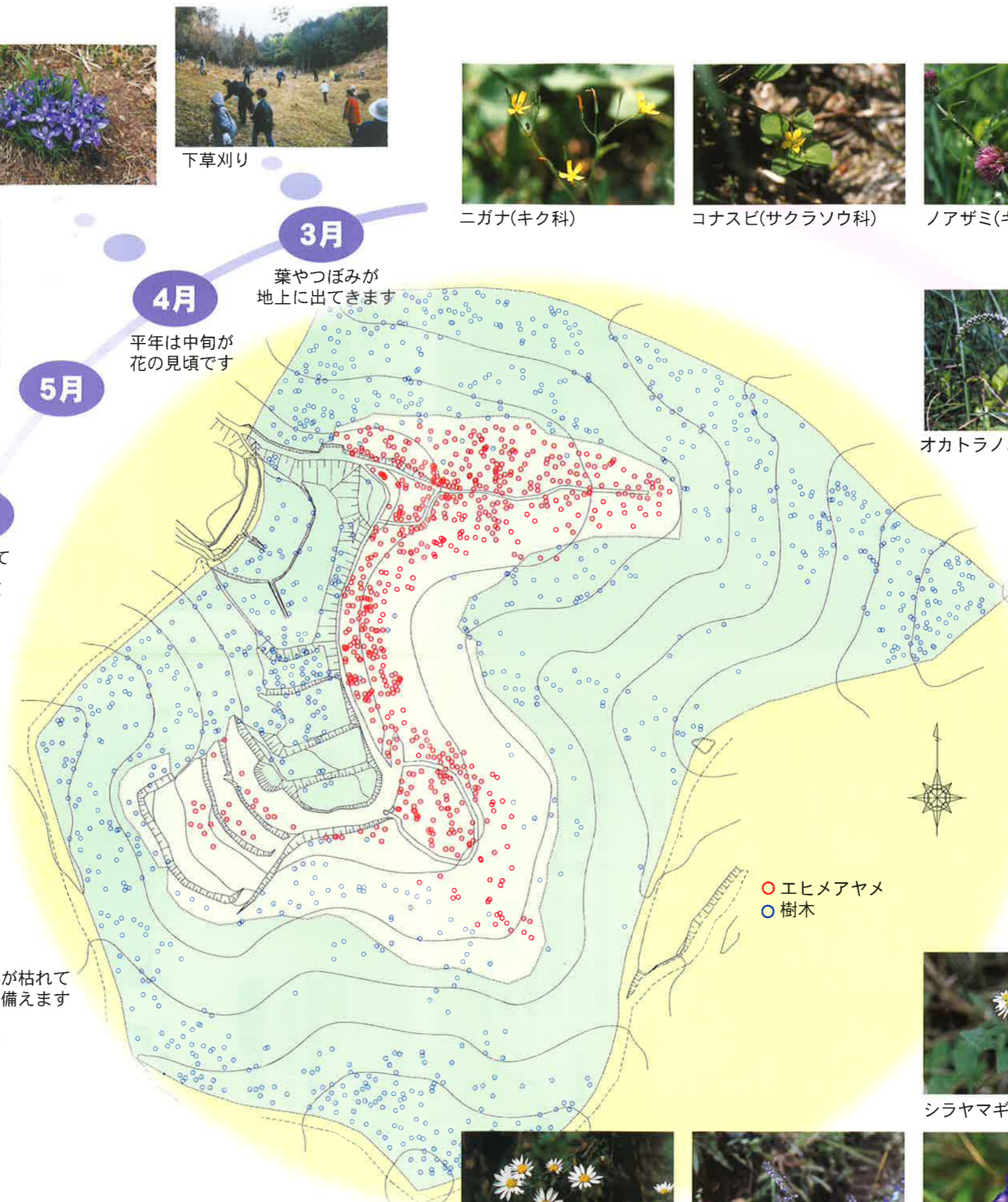
ヤマハッカ(シソ科)



リンドウ(リンドウ科)



ツリガネニンジン(キキョウ科)



3月

葉やつぼみが
地上に出てきます

4月

平年は中旬が
花の見頃です

5月

6月

葉が伸びて
40cm位に
達します

7月

果実がはじめて
種子が出て
きます

8月

11月

地上部が枯れて
来年に備えます



観察会



開花



下草刈り



一般公開



結実



2回目の下草刈り



成長した株



生育状況調査

2002年には総ての株に番号札を付けました。住民と研究者が協力して個体数の変動や、開花、結実の状況などを調査しています。